

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅲ	2	3年	文I②音楽Ⅲ選択者

使用教科書	副教材等
『Joy of Music』教育芸術社	なし

1 科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  
 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。  
 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。  
 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現するために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
②	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察 ワークシート等への記述内容	イ 演奏、作品の内容 エ 提出物の内容	アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。
---------------------------	------------------------	---------------------------

4 学習計画

学期	月	題材名	領域	項目	使用教材項目	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに○)		
							①	②	③
1 学期	4	発声・合唱	表現	歌唱	《20のソルフェージュ》から10番 発声のためのエチュード	・音楽Ⅱからの接続、音楽の学習の仕方を理解する ・安定した呼吸を続け、響きを保つことができる ・既習事項を使い、曲にふさわしい発声ができる ・曲想と歌詞との関わりを理解して、表現意図をもって豊かに歌うことができる	○	○	○
	5	西洋音楽史	鑑賞		西洋音楽	・時代を代表する楽曲の音楽的特徴を捉えながら、よさや美しさを味わうことができる ・文化的、歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解する ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、述べるができる		○	○
	6	ピアノ連弾	表現	器楽	LINUS AND LUCY	・鍵盤楽器の仕組みについて理解する ・鍵盤楽器表現に必要な奏法技能を身につける ・相手の音楽を聴き合ったり、意見交換したりして、自分の演奏表現技能を高めるとともに、アンサンブルに必要な技能を高めていく	○	○	○
	7	音楽理論	楽典		調号と主音 関係調	・関係調について理解する ・曲中に登場する調性と、その後の展開による曲の変化について説明できる	○		○
			世界の諸民族の音楽	鑑賞		世界の祭り	・世界各地の祭りや芸能を知り音楽が重要な役割を担っていることを理解する ・音楽の特徴を捉え、人々の祈りや思いがどのように表現されているのかを考える		
2 学期	9	ヴァイオリン	表現	器楽	ぶんぶんぶん メリーさんの羊	・弦楽器のしくみについて理解し、必要な奏法技能を身につける ・既習事項を用い、曲想に合った表現について考えることができる ・表現方法が曲にもたらす効果について理解し、演奏する	○	○	○
	10	創作表現	表現	創作	オスティナトを用いてピアノ曲をつくらう	・反復、変化、対照などの用語の意味を理解する ・オスティナトのもつ働きを感じる ・表したいイメージを、オスティナトやその他の表現形態を用いながら、ピアノ曲を作ることができる	○	○	○
	11	外部施設との交流演奏会に向けて ハンドベル ア・カペラ	表現	器楽	クリスマスソング	・打楽器の仕組みについて理解し、必要な奏法技能を身につける ・曲想に合った表現について考える ・曲想と歌詞との関わりを理解して、表現意図をもって豊かに演奏する	○	○	○
			表現	歌唱	聖歌	・相手の音楽を聴き合ったり、意見交換したりして、自分の演奏表現技能を高めるとともに、アンサンブルに必要な技能を高めていく ・聞き手を意識したプログラムを考える	○	○	○
	12	日本の伝統音楽	鑑賞		歌舞伎	・古典芸能の文化的、歴史的背景について理解し、音楽の特徴を知る		○	○
		ポピュラー音楽	鑑賞		ビートルズが残したモノ	・ジャンルごとの楽曲を聴き比べ、音楽的特徴について知覚する ・演奏者や音楽が社会に及ぼした影響について調べたり意見交換したりする ・自分が好きな音楽のよさを説明できる ・仲間が紹介した音楽のよさを感じることができる			○
3 学期	1	外部施設との交流演奏会に向けて 合唱	表現	歌唱	卒業ソング	・これまで習得してきた歌唱に関する技能を高めたり応用したりしながら、自分の表現意図を演奏で表すことができる ・歌詞に込められた思いを理解し表現することができる	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	保育器楽	2	3年	文m②保育器楽選択者

使用教科書	副教材等
なし	バイエルピアノ教則本／音楽之友社

1 科目の目標

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。
- (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けている。
②	思考・判断・表現	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもっている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的な学習に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察	イ 演奏、作品の内容	ウ 提出物の内容	アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。
----------	------------	----------	---------------------------

4 学習計画

時期	題材名	学習内容	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに○)		
				①	②	③
4 5 6	課題① バイエル教則本による ピアノ演奏基礎の習得	ピアノ演奏の基礎	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏するための、技術的な力を身に付ける。	○	○	○
	課題② ピアノ演奏に歌唱を伴う楽曲	弾き歌い	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 様々な表現形態による器楽、歌唱の特徴を理解し、表現上の効果等を考え演奏練習する。	○	○	○
	課題③ 学期のまとめとして 演奏発表	試験曲の演奏発表	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。 楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○
7 9 10	課題④ バイエル教則本による ピアノ演奏基礎の習得	ピアノ演奏の基礎	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏するための、技術的な力を身に付ける。	○	○	○
	課題⑤ ピアノ演奏に歌唱を伴う楽曲	弾き歌い	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 様々な表現形態による器楽、歌唱の特徴を理解し、表現上の効果等を考え演奏練習する。	○	○	○
	課題⑥ 学期のまとめとして 演奏発表	試験曲の演奏発表	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。 楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○
11 12 1	課題⑦ バイエル教則本による ピアノ演奏基礎の習得	ピアノ演奏の基礎	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏するための、技術的な力を身に付ける。	○	○	○
	課題⑧ ピアノ演奏に歌唱を伴う楽曲	弾き歌い	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 様々な表現形態による器楽、歌唱の特徴を理解し、表現上の効果等を考え演奏練習する。	○	○	○
	課題⑨ 学期のまとめとして 演奏発表	試験曲の演奏発表	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。 楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	器楽	2	3年	文の器楽選択者

使用教科書	副教材等
なし	なし

1 科目の目標

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。  
 (2) 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。  
 (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けている。
②	思考・判断・表現	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもっている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的な学習に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取り組みの観察	イ 演奏、作品の内容	ウ 提出物の内容	アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。
-----------	------------	----------	---------------------------

4 学習計画

時期		題材名	学習内容	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに○)		
					①	②	③
1 学期	4 5	課題① 選曲	楽曲分析、 選曲	選曲にあたり、様々な表現形態による器楽の特徴を理解し、表現上の効果等を考え、自らに適した楽曲を選曲する。	○	○	○
		課題② 中間発表	試験曲の発表	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 課題となる点の発見。	○	○	○
	6 7	課題③ 試験曲の練習	選択した楽曲の演奏 練習	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。	○	○	○
		課題④ 演奏発表	試験曲の発表	楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○
2・ 3 学期	9 10	課題⑤ 選曲	楽曲分析、 選曲	選曲にあたり、様々な表現形態による器楽の特徴を理解し、表現上の効果等を考え、自らに適した楽曲を選曲する。	○	○	○
		課題⑥ 中間発表	試験曲の発表	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 課題となる点の発見。	○	○	○
	11 12 1	課題⑦ 試験曲の練習	選択した楽曲の演奏 練習	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え表現する。 正確な指づかい、適切なテンポで演奏することを心がけ練習する。	○	○	○
		課題⑧ 演奏発表	試験曲の発表	楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○

# 令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	美術Ⅲ	2	3	三年文0②

使用教科書	副教材等
「高校生の美術3」（日本文教出版）	なし

<b>科目の目標</b> <small>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。          (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。          (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。          (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</small>
---

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術文化と主体的に関わり美術の幅広い表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

<b>評価方法</b>
授業への取り組みの観察、ワークシートへの記述内容の確認・分析、ワークシートや作品などの提出物等の内容を観点別に総合して評価する。□

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・美術Ⅲの学習について 授業内容、必要な用具、材料などを理解する。			
4 5	パッケージデザイン	表現	デザイン	・用途や構造、強度などに着目して構想を練り、材料を生かして目的を持って表現する。	○		
		鑑賞		・目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、そのよさを深く感じ取る。		○	○
5 6 7	ブランディングデザイン	表現	デザイン	・意図に応じて材料や表現方法などを工夫し、効果的に生かして表現する。 ・社会を深く見つけ、ブランディングデザインの目的を理解し、創造的に表現の構想を練っている。	○	○	○
		鑑賞		・社会における美術の役割について考え、作者の意図やデザインの働きを深く感じ取る。		○	○
9	日本美術史	鑑賞		・価値意識をもって日本美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	○		○
9 10	透明水彩画	表現	絵画	・対象を深く観察し、感じ取ったことや考えたことから表現の構想を練る。 ・材料の特性を生かし、効果的に表現できるよう創意工夫する。	○		○
		鑑賞		・透明水彩画の具の特性について理解し、材料の持つ美しさやその効果について味わい、作者の表現の意図について感じ取る。		○	○
11 12 1	それぞれのテーマに合わせた個人制作	表現	絵画 彫刻	・絵画・彫刻の分野から選択し、主体的に独創性のある主題を生成する。 ・具体的な計画を立て、材料や道具の特性を生かして創造的に表現を追求する。	○		○
		鑑賞		・作者の意図や表現の工夫などを感じ取り、深く味わう。		○	○

## 令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
美術	絵画	2	3	三年文m②

使用教科書	副教材等
なし	なし

<b>科目の目標</b> 絵画に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 絵画表現の可能性を追求する態度を養う。
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	さまざまな絵画表現の特性について理解を深めるとともに、材料や用具などを工夫して独自の・創造的に表す専門的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	絵画表現におけるさまざまな知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に表現や鑑賞をし、絵画表現の可能性を追求しようとしている。

評価方法
授業への取り組みの観察、ワークシートへの記述内容の確認・分析、ワークシートや作品などの提出物等の内容を観点別に総合して評価する。□

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・絵画の学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明			
4 5 6 7	水彩画 (不透明水彩)	表現	水彩画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不透明水彩絵の具やメディウムなど、それぞれの特性と制作手順の違いや表現効果について理解し、紙質や地肌、絵肌などを生かした表現技法を工夫する。</li> <li>・意図に応じた表現を追求できるように独自の・創造的に表す表現の構想を練る。</li> </ul>	○	○	○
		鑑賞		・生徒や作家の作品のよさや美しさを感じ取ったり味わったりして、絵画表現の見方や感じ方を深める。			
9 10 11	ミクストメディア	表現	その他の絵画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な画材やマチエール材など、それぞれの特性と制作手順の違いや表現効果について理解し、紙質や地肌、絵肌などを生かした表現技法を工夫する。</li> <li>・新しい表現材料を組み合わせた複合的表現など、意図に応じて独自の・創造的に表す個性を生かした表現の構想を練る。</li> </ul>	○	○	○
		鑑賞		・生徒や作家の作品のよさや美しさを感じ取ったり味わったりして、絵画表現の見方や感じ方を深める。			
12 1	色鉛筆画	表現	その他の絵画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色鉛筆の特性と混色による表現効果について理解し、表現方法を工夫する。</li> <li>・モチーフから感じ取ったことや考えたことを独自の・創造的に表現できるよう表現の構想を練る。</li> </ul>	○	○	○
		鑑賞		・生徒や作家の作品のよさや美しさを感じ取ったり味わったりして、絵画表現の見方や感じ方を深める。			

# 令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	絵画(保育)	2	3	3年文o

使用教科書	副教材等
なし	なし

<b>科目の目標</b>
絵画に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 絵画表現の可能性を追求する態度を養う。

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	さまざまな絵画表現の特性について理解を深めるとともに、材料や用具などを工夫して独創的・創造的に表す専門的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	絵画表現におけるさまざまな知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に表現や鑑賞をし、絵画表現の可能性を追求しようとしている。
<b>評価方法</b>	
授業への取り組みの観察、ワークシートへの記述内容の確認・分析、ワークシートや作品などの提出物等の内容を観点別に総合して評価する。□	

I							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・絵画(保育)の学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明			
4 5 6 7	キャラクター イラストレーション	鑑賞		・時代や社会背景による表現内容や方法の変化・発展などについて学び、理解を深める。			
		表現	イラストレーション	・キャラクターイラストレーションの基礎を学び、形体や色彩など生かして、子どもを対象としたキャラクターイラストレーションとして創造的に構想を練る。 ・それぞれの表現材料の特性について理解し、主題に合わせて道具の効果的な使い方を試行錯誤し、追求して表現する。	○	○	○
		鑑賞		・作品のよさや美しさを感じ取ったり味わったりして、絵画表現の見方や感じ方を深める。			
9 10 11 12 1	仕掛け絵本制作	鑑賞		・時代や社会背景による表現内容や方法の変化・発展などについて学び、理解を深める。			
		表現	その他の 絵画	・絵本の基本的な構成について学び理解する。 ・子どもを対象とした絵本として、創造的に主題やストーリーの構想を練る。 ・主題やストーリーに合わせ、描画材料や表現技法を選択し、表現を追求して制作する。	○	○	○
		鑑賞		・作品のよさや美しさを感じ取ったり味わったりして、絵画表現の見方や感じ方を深める。			

# 令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	ビジュアルデザイン	2	3	3年文①

使用教科書	副教材等
グラフィックデザイン基礎 (エムディエヌコーポレーション)	なし

科目の目標
<p>ビジュアルデザインに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 視覚的な伝達効果について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) ビジュアルデザインの可能性を追求する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨						
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; border: 1px solid black;">① 知識・技能</td> <td style="border: 1px solid black;">視覚的な効果や伝達機能について理解を深め、様々な表現方法や材料や用具などを工夫して独創的・創造的に表現する技能を身につけている。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">② 思考・判断・表現</td> <td style="border: 1px solid black;">ビジュアルデザインにおける専門的な知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったり、ビジュアルデザインの作品に対する見方や感じ方を深めている。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">③ 主体的に学習に取り組む態度</td> <td style="border: 1px solid black;">ビジュアルデザインの特性や社会における役割を理解して、主体的に表現したり鑑賞し、ビジュアルデザインの可能性を追求している。</td> </tr> </table>	① 知識・技能	視覚的な効果や伝達機能について理解を深め、様々な表現方法や材料や用具などを工夫して独創的・創造的に表現する技能を身につけている。	② 思考・判断・表現	ビジュアルデザインにおける専門的な知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったり、ビジュアルデザインの作品に対する見方や感じ方を深めている。	③ 主体的に学習に取り組む態度	ビジュアルデザインの特性や社会における役割を理解して、主体的に表現したり鑑賞し、ビジュアルデザインの可能性を追求している。
① 知識・技能	視覚的な効果や伝達機能について理解を深め、様々な表現方法や材料や用具などを工夫して独創的・創造的に表現する技能を身につけている。					
② 思考・判断・表現	ビジュアルデザインにおける専門的な知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったり、ビジュアルデザインの作品に対する見方や感じ方を深めている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	ビジュアルデザインの特性や社会における役割を理解して、主体的に表現したり鑑賞し、ビジュアルデザインの可能性を追求している。					
評価方法						
授業への取り組みの観察、ワークシートへの記述内容の確認・分析、ワークシートや作品などの提出物等の内容を観点別に総合して評価する。□						

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・ビジュアルデザインの学習について理解する			
4 5	色彩の基礎	表現	ビジュアルデザインの基礎	・色彩の基礎やその効果などについて学び、ビジュアルデザインにおける色彩の役割などについて理解する。 ・道具を正しく使用し平塗技法を習得する。	○		○
5 6 7	ピクトグラムデザイン プレゼンテーション	表現	伝達目的に応じたデザイン/図法、表示法	・ピクトグラムデザインの基本を理解する。 ・ピクトグラムが社会において果たす役割や責任を意識して創造的な表現の構想を練る。 ・平塗技法を駆使し作品の完成を意識して表現する。	○	○	○
		鑑賞		・デザインの調和のとれた美しさや良さを感じ取り、制作者の表現の意図と創造的な工夫について見方や感じ方を深める			
9 10 11 12 1	ブランディングデザイン プレゼンテーション	表現	ビジュアルデザインの基礎/伝達目的に応じたデザイン/図法、表示法	・見る人の心情とデザインとの関係、生活や環境においてデザインが果たす役割や責任などについて学び、理解する。 ・それぞれが主題として設定したテーマを追求するための表現の構想を練る。 ・視覚伝達の効果を意識して主題を追求し、表現する。	○		○
		鑑賞		・デザインの調和のとれた美しさや良さを感じ取り、制作者の表現の意図と創造的な工夫について見方や感じ方を深める			

# 令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	素描	2	2	三年文 n

使用教科書	副教材等
イチバン親切なデッサンの教科書	なし

<b>科目の目標</b>
素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。 (2) 対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 造形表現を追求する態度を養う。

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	表現材料の特性について理解を深め、対象を深く観察して表現を工夫しながら、的確に描写する基礎を身に付けている。
② 思考・判断・表現	深い観察を通して、対象のイメージや空間を把握するなど、状態や状況を判断しようとしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に対象を観察し考察を深め、表現材料などを研究して形体や明暗、量感などについて造形表現を追求しようとしている。
<b>評価方法</b>	
授業への取り組みの観察、ワークシートへの記述内容の確認・分析、ワークシートや作品などの提出物等の内容を観点別に総合して評価する。□	

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・素描の学習について 授業内容、必要な用具、材料などについて理解する。			
4	画材について デッサンの基礎	表現	表現材料 デッサン	・描画材料の特性を理解し、効果的に使用し表現できる。 ・透視図法などを学び、モチーフを的確に観察し、美的秩序を確かめながら表現する。	○		○
5 6 7	静物デッサン	表現	デッサン	・モチーフを深く観察し、感じ取ったことや考察したことを基に主題を生成し、透視図法などを使って空間を効果的に表現する。	○	○	○
		鑑賞		・作者の意図や表現材料を用いた表現の工夫などを味わい感じ取る。			
9 10 11 12	個別モチーフデッサン	表現	デッサン	・個別に選択したモチーフを深く観察し、透視図法を基にした形体の把握と明暗を意識した量感、空間感の表現方法について構想を練る。 ・表現材料の特性を生かして、美的秩序を確かめながら表現する。	○	○	○
		鑑賞		・作者の意図や表現材料を用いた表現の工夫などを味わい感じ取る。			
1	人体スケッチ	表現	スケッチ	・人体をよく観察し、ポーズを考察して比率などに注意しながら表現する。	○		○
		鑑賞		・作者の意図や表現材料を用いた表現の工夫などを味わい感じ取る。			

# 令和8年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	書表現	2	3年	選択者

使用教科書	副教材等
「書き込み式 筆ペン字練習帳」 (成美堂出版)	資料プリント

<b>科目の目標</b>
<p>小筆（毛筆）を用いて、生活の中の実用的な書に関する知識や技術を身につけ、書写能力の向上を図る。また、文字を使用した幅広い表現、篆刻・刻字等の諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現及び鑑賞の能力を高め、書の伝統と文化についての理解を深める。</p>

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	創造的な書表現をするために、書の効果的な知識と表現の技能を身に付け表している。
② 思考・判断・表現	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。

<b>評価方法</b>	
ア 練習帳    イ 作品    ウ 実技(小)テスト    エ 提出物の内容 オ 授業に取り組む姿勢    などをもとに総合的に評価する。	

<b>学習計画</b>						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	入門 実用書（小筆）	筆の使い方 漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道具の使い方を知る</li> <li>・ 漢字の学習（楷書）</li> </ul>			
5	篆刻 姓名印の制作	別途資料用意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 篆書と篆刻について理解する</li> <li>・ 刀法を理解する</li> <li>・ 落款と印について学ぶ</li> </ul>	○	○	○
6	商業デザイン	別途資料用意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ うちわをデザインする</li> <li>・ 太筆の使い方を理解する</li> </ul>			
7	実用書（小筆）	名前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の名前と住所を正しく書く</li> </ul>			
9	はがき 慶弔の表書き	はがきの表書き のし袋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はがきの書式を理解する</li> <li>・ 祝儀・不祝儀の書式を理解する</li> </ul>	○	○	○
10	創作	別途資料用意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創作することの意義を知る</li> <li>・ 課題を設定し作品をまとめる</li> </ul>			
11	刻字／ 鑑賞・原稿制作	別途資料用意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代作家の作品を鑑賞し、表現方法を理解する</li> <li>・ 原稿を制作する</li> <li>・ 刀法を理解する（彫刻刀）</li> <li>・ 陰刻・陽刻について知る</li> </ul>	○	○	○
12	木刻					
1	刻字／着色		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着色し仕上げる</li> </ul>			